

クワシントメタマバエの重点防除時期と新防除法

(蚕試：環境部)

1、背景とねらい

クワシントメタマバエは、本県では概ね年4回発生するが、これまで1化期の発生量が少なく、2化期以降の急激な増加が被害に結び付くとして、2化期と3化期の防除に重点を置いてきた(昭和54年度、60年度参考事項)。

ところが、1化期の被害が予想以上に大きく、2化期、3化期の防除では対応不十分な事例が見られたことから、本種の重点防除時期と新防除法について検討したので参考に供する。

2、技術内容

- 1) クワシントメタマバエ防除の重点は、第1回目発生の越冬世代成虫とする。地表面への薬剤散布適期は、春切桑園では6月25日以前、夏切桑園では春蚕期収穫終了直後の1週間以内とし、ダイアジノン微粒剤F(4kg/10a)、または、ダイアジノン微粒剤Fと除草剤を地表面に均一に散布する。
- 2) 地表面散布には、T型多口噴頭付き背負動力散布機を使用すると、散布時間は10アール当たり約6分と大幅に省力化できる。
- 3) 地表面散布ができない場合は、7月上～中旬に、頂芽内の寄生幼虫を確認し、頂芽にジメトエート・DDVP乳剤1000倍液を50ℓ/10a散布する。

3、指導上の留意事項

- 1) 地表面への殺虫剤散布に先立ち、畦間耕耘・株間除草剤散布等によって、桑園雑草を取り除いておくこと。
- 2) 越冬世代成虫の羽化時期の予測精度を向上させるために、各地域で、例年、本種の多発する桑園から、5月に表層土壌を採取し、水分を加えながら、21℃の恒温器に納め、その後の経過を予測すること。
- 3) 越冬世代成虫の防除は予防散布となるため、前年の発生状況を調査して、防除対象桑園を設定するなど、過剰散布を防止すること。

4、参考文献・資料

- 1) 深谷昌次(1968): 昆虫実験法(深谷ら編)、pp545～560、日本植物防疫協会、東京。
- 2) 内田俊郎(1957): 応動昆、1(1)、46～53。

5、試験成績

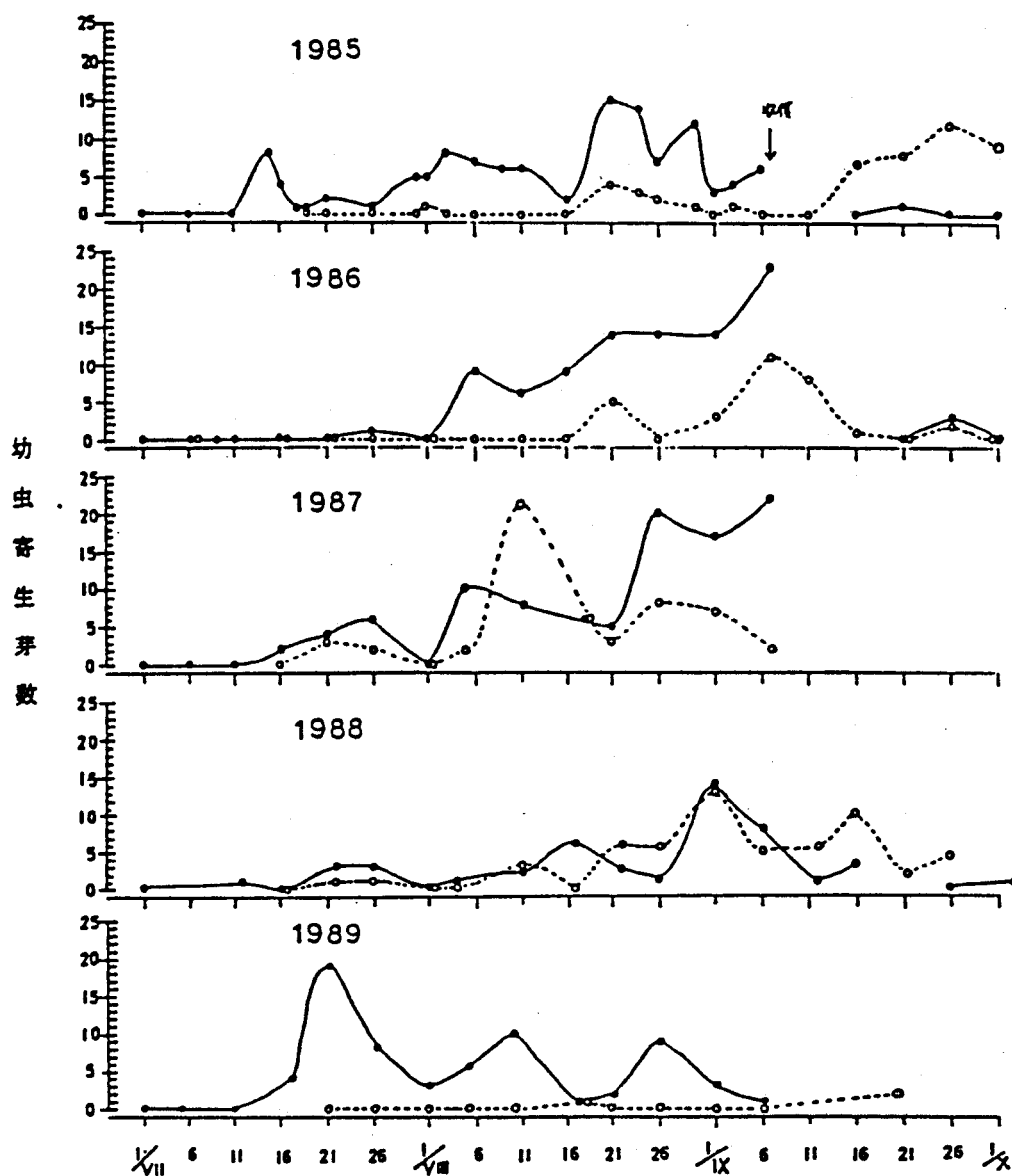


図1. 無作為に抽出した頂芽30芽当たりのクワシントメタマバエ幼虫寄生芽数の推移
(胆沢町小山、蜜試附野桑園、改良鼠返)

表1 現地桑園土壌からの越冬世代成虫の羽化状況

土壌採取日	保護温度	時 期 別 羽 化 虫 数																羽化期間	50%羽化日
		5 月				6 月						7 月							
		3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6		
5月 1日	27℃	1	6	2	4	3	1		1									5/15~6/16	5/21
	24	1	4	8	4	2			1									5/15~6/20	5/23
	21		3	5	7	3												5/18~6/ 3	5/26
	18	1	2	7	3	4		3										5/15~6/15	5/24
	15			1	1	1	3	4		1		4						5/23~7 3	6/11

注) (1) 花泉町日形2ヵ所、一関市弥栄、大東町大原、水沢市(蜜試)の計5ヵ所の桑園から表層土壌を採取し、当日、各温度に保護した。
(2) 羽化虫数は、各採取土壌からの合計数を示す。